

5. おわりに

大規模土砂災害対策技術センターは、平成23年紀伊半島大水害を契機として設立され、これまでの10年間に於いて、深層崩壊・表層崩壊のメカニズムやリスク評価手法、流域における土砂動態の観測、UAVを活用した崩壊地・砂防施設の自動調査・点検手法、土砂移動等の自動検知技術開発を中心として調査・研究を実施してきた。また、防災教育や講演会の実施など地域における啓発活動も継続的に実施してきた。紀伊半島大水害の被災地では、対策工事が着実に進んでおり、大規模土砂災害対策技術センターの取組とあわせ、地域防災力の向上にも貢献しているところである。

大雨や地震に伴う大規模土砂災害は近年も度々発生しており、大規模土砂災害対策技術センターのこれまでの成果を積極的に全国に発信し、成果の社会実装を進めていかなければならない。大規模土砂災害対策技術センターのこれまでの10年間の取り組みは、深層崩壊・表層崩壊の発生メカニズムなど基礎研究に重心を置いたものとなっていたが、土砂災害分野の研究としては、今後発生が懸念される大規模土砂災害への対応力強化に向けて、これまでの研究成果もふまえながら、行政サポートに重心を置いた研究も必要と考える。